



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail: gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

■ 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」事後評価

鹿児島大学では、平成23年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、女性研究者増加に向け、平成25年度までの約3年間様々な取組を実施してきました。このNewsletter発行も、支援事業採択がきっかけとなっています。

事業期間中は、皆様のご協力をいただきながら、様々な取組を進めましたが、残念ながら、計画当初に設定した数値目標のいくつかが達成出来ませんでした。しかし、中長期計画に基づき、事業終了後の現在も、同目標達成に向けて、引き続き取組みを推進しているところです。

さて、本事業におきましては、平成26年11月に、事業終了後の事後評価ヒアリングを受審し、前田学長より「女性研究者を増やす」取組の継続と発展について説明を行いました。そして、この度評価が出されました。評価結果は、右図のとおりとなっています。

取組は、まだ道半ばといったところです。今後は、「ダイバーシティ」をキーワードにさらに発展的な取組が求められます。「日本一学生を大切に、若者の集う大学」にすべく、今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

総合評価

A

所期の計画と同等の取組が行われている。

- ①目標達成度
- ②取組
- ③取組の成果(システム改革)
- ④実施体制
- ⑤実施期間終了後の取組の継続性・発展性

b
a
a
a
a

■ 島秀典男女共同参画推進室長(総務担当理事)のコメント

鹿児島大学では、平成23年度の文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、学長の強いリーダーシップの下、女性研究者支援体制を整え、研究支援員制度やメンター制度の整備充実による環境改善のほか、シンポジウム、トップセミナー、キャリア形成セミナー及び交流会の開催、ロール・モデル誌の制作等による意識啓発及び女性研究者の裾野拡大など、全学を挙げて精力的に取り組んできました。

その結果、本事業評価において、「総合評価A」という高い評価結果を頂きました。関係各位のご理解とご協力に感謝すると共に、さらに力強く男女共同参画の取組を推進していきますので、ご支援の程よろしく願いいたします。



島男女共同参画推進室長
(総務担当理事)

■ museカフェ ～教員と学生の交流会開催

全国的にも、女性研究者の少ない工学系分野ですが、鹿児島大学も同じ課題を抱えており、平成27年2月1日現在専任教員4名(全女性教員中の在籍率2.5%)、特任も含めた女性教員では7名(同3.7%)と非常に少ない状態です。そうした理由から、女子学生が女性教員と交流する機会もほとんどありませんでした。そのような状況の中、平成26年11月20日に工学系女性教員と学生との学科を越えた交流会が開催されました。昼食時という短時間にも関わらず、本音でのやり取りは、教員と学生との間の距離を縮めただけでなく、参加した学生からは、「将来設計の参考になった」等の声が聞かれ、非常に好評だったため、今後も開催することとしています。



工学部の教員と談笑する学生たち

■ 介護セミナー開催

平成26年10月～11月に、ライフイベントの一つの柱である「介護」にテーマを絞ったセミナー(全5回)を初めて開催しました。出産・育児に視点が集まりがちですが、高齢化社会を迎え、誰もが避けられない重要なテーマです。

10月の2回は、本学保健学科中尾教授と丹羽教授を講師に、それぞれ「介護」と「老い」をテーマとした講演をしていただきました。11月の3回は、地域包括支援センターより、西野氏、堀之内氏、前田氏を講師に迎え、実例も含めながら、包括支援センターの支援内容や認知症に関する説明をいただきました。当センターでは、今後も、育児支援とは両輪の関係と位置付けて、介護に関するセミナーを積極的に開催していく予定です。



講師の話に聞き入る参加者たち

■ 女子中高生進路選択支援事業 ～2014女子中高生のための鹿大科学体験塾開催

男女共同参画推進センターでは、理系学部が協力して、平成26年11月に「2014女子中高生のための鹿大科学体験塾～理系女子(リゲジョ)ってカッコイイ!～」を開催しました。これは、理系に進む女子が少ない現状を踏まえ、女子中高生を対象に、理系4学部による科学の体験機会や女子大学院生との交流機会を提供することで、理系への関心を持ってもらうことを目的に平成23年度から毎年開催しています。

今回は理系4学部の8コースに計58人の女子中高生が参加。理学部では、カオス理論や物質の染色の仕組みの観察、BSアンテナを使用した太陽の温度測定、工学部では、ロボットによるリハビリ体験や電子顕微鏡による観察を行いました。また、農学部では、人

のDNA観察によるアルコール体質の測定や、家畜の体外受精の実験を体験したりしたほか、共同獣医学部では、動物の感染症について学習しました。実習後、大学院生との意見交換会を行う学部もあり、参加した女子中高生や保護者からは、「今回の体験を通じてさらに興味が深まった」や、「子供の進路選択に役立った」などの声が聞かれ、各学部での実験や女子大学院生との交流等を通じて、さらに、科学の世界への関心を深め、進路選択を考える有意義な機会となりました。



顕微鏡で観察する参加者

保育園活動紹介 ～さくらっ子保育園～



本学には、教職員に対する保育支援として、さくらっ子保育園(桜ヶ丘キャンパス)とおぞら保育所(郡元キャンパス)が設置されています。今回は、さくらっ子保育園の活動について紹介いたします。



さくらっ子保育園は、本学の教職員の子供で、0歳児(生後8週間以上)～6歳児(小学校就学前)までを対象とし、現在は、0～5歳児までの計45名の子供たちを受け入れています。通常保育に加え、一時保育、病後児保育にも対応しており、終夜保育も行っています。

当園では、毎日、手作りおやつが提供され、迎えの時間では、保育内容だけではなく、おやつについての会話等が聞かれ、親子で関心を持って受け止められているようです。

年間行事も、春のお花見会に始まり、夏は夏祭り、秋には、運動会や遠足、冬には、クリスマス会、節分、ひな祭り等盛りだくさんです。いろいろな行事を通して季節を味わってもらい、子供達の心に何か感じるものがあればいいですね。(情報提供:さくらっ子保育園長)



4月には桜が満開!!みんなで散歩に出かけたり、園庭で花見をしたり、子どもたちには、いつも元気があふれている。



保護者も鬼になった2月の節分。優しい鬼にも関わらず、子どもたちは“怖～い鬼”を前に、泣きだしたり、保育士の先生に隠れるなど大騒ぎ。



大学入試センター試験時保育支援実施

大学入試センター試験時に、試験監督等入試業務に従事する必要がある教職員に対する保育支援として、1月17日・18日の2日間、鹿児島市内の学外保育施設と本学さくらっ子保育園(桜ヶ丘キャンパス)施設利用の協力を得て、一時保育を実施しました。昨今の入試は、受ける側・実施する側双方に非常に負担のかかるイベントとなっています。ライフイベント期の教職員の負担が少しでも軽減出来るよう、センターとしても継続して支援体制を取れるよう努めていく予定です。

鹿児島県内大学等男女共同参画連携会議開催

平成26年12月10日に、鹿児島県民交流センターにて鹿児島県内の大学等(計9機関)が一堂に会し、男女共同参画連携会議が開催されました。会議では、初めに鹿児島県より、男女共同参画に係る現状や政策についての説明があり、その後、参加大学の現況等の報告をいただきました。短い時間にも関わらず、各大学の課題等も見え、県内の大学間で、連携していこうという意識醸成がなされたことは、有意義な時間が持てた証だろうと思います。対外的に男尊女卑のイメージのある鹿児島県ですが、だからこそ、イメージを覆す一発逆転の秘策も出るかもしれません。アイデアを出し合っ、各機関のより良い修学・就業環境に繋がることを期待したいと思います。

男女共同参画セミナー「生きる、多様な性のあり方」を開催

平成27年2月13日に、本学保健学科下数領須美子准教授を講師に、「生きる、多様な性のあり方」と題して男女共同参画セミナーを開催しました。講師からは、LGBT等の性的少数者の理解のためには、基本的人権として多様な性があることを受け入れることができる体制づくりや、正しい知識を得る機会を作ることなどの必要性が語られ、さらに当事者からの経験談もあり、学内外からの参加者には、大変有用な機会となりました。

教育学部における男女共同参画推進の取組

「教育学部における男女共同参画推進」

教育学部は女子学生の比率(平成26年度)が学部生で54.5%、修士課程で40.8%と、女子学生の多い学部です。一方、教員について見てみると、女性教員は現在18名(約18%)で、学部の目標として掲げている平成27年度までに女性研究者(特任教員を含む)の在職率20%にはまだ到達していませんが、平成21年の女性教員比率約14%の状況から毎年徐々に増加してきています。女子学生が半数を超える本学部において、女性教員の増加はより多くの女子在学生が、身近にロールモデルを見出すことに繋がっていると思います。多くの学生が教職に就く本学部においては、それぞれが、将来男女共同参画社会形成の担い手となると同時に、次の担い手を育てる立場となります。そのためにも性別に関わらず男女共同参画の視点について学ぶことが大切であり、その学習機会の拡大は学部



教育学部
田島 真理子 教授

の目標の一つとなっています。共通教育科目である「男女共同参画とキャリアデザイン」の授業には3名の学部教員が関わっており、教育学部学生も熱心に受講しています。また、男女共同参画推進センターの夏のオープンキャンパス企画「ガールズ☆Talk」には、教育学部の女子学生を中心とした「サンサポ(参画サポーターの略称)」が毎年この企画の運営に活躍しています。この活動はサンサポの学生にとっても男女共同参画について考えるよい機会となっています。この他、学内にとどまらず男女共同参画に関する出前授業の講師として高校での講話に出かけるなどの活動も行っています。女性研究者の増加に取り組むとともに、教育学部らしい取組を通して教員・学生が連携して男女共同参画推進のための活動を更に広げていくことができると考えています。



ガールズ☆Talkの発表者とサンサポ

女性研究者在籍状況(H27/3/1現在)

平成27年3月1日現在 人数(比率)	
全体	198人(16.9%):19人
専任教員	156人(15.0%):8人
自然科学系分野	86人(11.5%):5人
理工農水分野	23人(6.4%):3人

※右端の数字は、平成26年度(H26.4.1～H27.3.1)の増加数

Information (取組状況)

<今後の予定>

- ◆3月13日～4月9日 男女共同参画展 附属図書館1階ギャラリアトリウム
- ◆3月17日 研究支援員制度利用者による研究発表会
- ◆3月27日 第2回男女共同参画キャリア形成セミナー
テーマ:「巨大とわたしと宇宙の関係～夢を現実に!宇宙エンジニアという仕事」
講師:小林裕希氏(JAXA)
- ◆3月30日 学内学童保育(試行)